

能美市立和気小学校



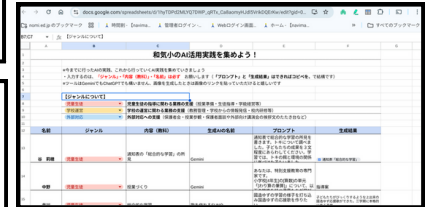
1. 導入目的

本校は、児童数152名の単級小規模校であり、教職員数が限られていることから、一人ひとりが担う校務負担の軽減が喫緊の課題となっている。一方で、これまでのリーディングDXスクール事業を通じて、授業におけるICT活用は着実に進展してきた。次なるステップとして、生成AIを「教師の伴走者」および「児童の思考のパートナー」と位置づけ、以下の二軸で導入を図る。

1. 校務の効率化：生成AIによる業務自動化や資料作成支援を通じ、教職員が児童と向き合う時間を最大化する「持続可能な学校運営モデル」を確立する。
2. 学びの質の向上：既に定着しているICT活用を基盤に生成AIを個別最適な学びのツールとして活用し小規模校の強みを活かした「主体的・対話的で深い学び」をさらに高度化させる。

2. 利用の準備

- 職員会議で周知
生成AIの可能性や活用の方法の紹介を職員に伝えて周知した
- 校内研修会
市教委の指導主事を招き、生成AIについて校内研修会を開き、生成AIの活用の仕方やその方法について体験を通して学んだ。
- 実践集めの環境づくり
市内の教員が実践を集めているスプレッドシートを活用し校内でも生成AIの実践をスプレッドシートに記入し蓄積した。



3. 運用方法

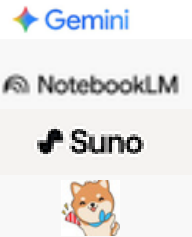
生成AIを校務と授業で活用していくうえで、その目的と対象、期待する効果を明確にして活用した。

利用者及び利用場面

- ・教職員が校務（お便り作成、指導案作成、授業の素案づくり、各種アンケート等）で利活用
- ・教職員が授業で活用
- ・児童が教師が準備した教材を学習に生かす

利用環境

- ・ Gemini
- ・ NotebookLM
- ・ SUNO
- ・ Class Cloud



4. 実践紹介（校務利用）その1・2

□NotebookLM を活用して授業整理会の記録作成

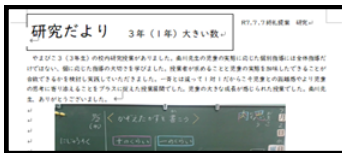
校内の研究授業で授業整理会の内容を音声で録音し、その音声データをNotebookLMに読み込ませ、授業整理会の記録を作成した。研究だよりとして職員に周知することができた。

【プロンプト例】
音声データは校内の研究授業後の授業整理会の内容です。以下の条件に合わせた書類を作成してほしいです。
(条件)

- ・ 授業の成果と課題の視点を盛り込む
- ・ 本校の研究主題、研究の重点2つの視点を盛り込む
- ・ 視点のカテゴリに分けて箇条書きで記載する
- ・ 書類を見る対象は教職員

【活用効果】
共通理解を図りたいこと、周知したいことを書類等に簡単に作成することができた。プロンプト次第で希望に沿った表記の仕方、文章構成も提案してくれるので、効果的であった。通常、文書作成において加筆修正する時間、完成までの時間を大幅に削減することが可能になり、空いた時間で他の業務の遂行に当たることができた。

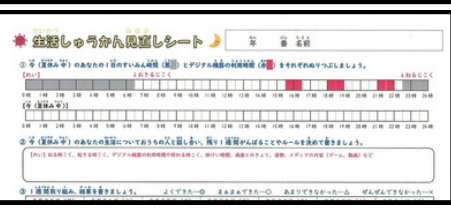
ただし、会議の中で個人名や生徒指導上、配慮するべき内容はデータ上、修正しておく必要があるので注意が必要である。



□Gemini. NotebookLMの活用でアンケート分析

全校児童の生活アンケートを年間に2回行った。2回のアンケート結果を分析し、その分析結果から児童の生活スタイルを把握したり課題を見つけ、改善方法を模索する手立てとした。

【活用効果】
アンケート項目に応じた相違点やアンケート結果を対比した時の共通点を瞬時に導き出したり、結果を分析した場合のいくつもの事例を挙げて可能性を示唆してくれた。



5. 実践紹介（校務利用）その3

□ NotebookLM を活用して指導案の添削

NotebookLMには学習指導要領解説のデータを読み込ませておく。自分で作った指導案をPDFにして読み込ませて、指導案の誤字・脱字のチェックや学習指導要領解説の内容との整合性を図る。

【プロンプト例】

指導案の内容について、以下の観点で学習指導要領解説に照らし合わせ、整合性をチェックして下さい。

(観点) 1. 単元の目標について 2. 本時の目標とまとめについて 3. 本時の学習活動について

(条件) ・指導案と指導要領の記載を併記する

・最初に整合性の結論を記述し、整合性の度合いをABCで評価する

(活用効果)

指導案の誤字脱字が減り、指導要領との整合性も簡単に図れるため、作成にかかる時間が短縮した。また、指導事項にも焦点化して作成することができた。

算数「見方・考え方」を活かした授業実践



6. 実践紹介（教育利用）その1・2

□ SUNOを活用して総合の学習ソングを作曲

5年生の総合の学習で能美市の名産「国造ゆず」について学習したきた。児童が学習してきた内容に合った曲をSUNOで作曲した。歌詞に入りたいキーワードを入力し、曲調や仕上がりの雰囲気を選択することで希望に沿った曲が仕上がる。アンドロイドのボイカルが歌手として歌ってくれる。

【キーワード】

・国造ゆず ・虚空蔵地区 ・無農薬 ・裏年

(活用効果)

児童が学習してきた学習のキーワードが曲になることにより、学習に深みが増し、地域の財産に親しみを覚えることができた。



◆プロンプト
あなたは小学校6年生の音楽の先生です。卒業式に女性二部合唱でGreeceNの「運か」を歌います。全員の人数は30人で、あまり合唱が得意ではないです。同じメロディで歌う部分とアルトとソプラノに分かれる部分はどこが良いか教えてください。

◆回答
「運か」を卒業式で歌うのですね！とても感動的な楽曲です。30名という少人数で、かつ合唱に少し苦手意識があるとのことですので、「自信を持って大きな声で歌える部分」と「ハーモニーを聴かせる部分」をはっきりと分けるのが成功の鍵です。

□ Geminiで卒業式の歌の構成案づくり

Geminiを活用して6年生が卒業式で歌う歌の構成の素案作りをした。

(活用効果)

素案から具体的な指導の構成を立てて、実際の指導に生かすことができた。一から歌唱練習の計画を立てるよりもGeminiを活用することで素案を作ることができて指導計画を立てやすくなった。

7. 実践紹介（教育利用）その3

□ Geminiを活用して国語の感想文の促進

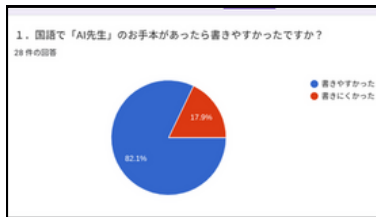
3年生の国語「ちいちゃんのかげおくり」で場面を決めて感想文を書く学習活動において、生成AIの感想文を示して、児童の感想文のお手本にした。

(活用効果)

文章を書く活動に苦手意識を抱いている児童にとって、書き方や書きぶりのお手本があると書くことのハードルが低くなり取り組みやすくなった。

項目	生成AIの感想文	児童の感想文
内容	「ちいちゃん、お母ちゃん」ときかかるところ	「ちいちゃん、お母ちゃん」ときかかるところ
文法	「ちいちゃん、お母ちゃん」ときかかるところ	「ちいちゃん、お母ちゃん」ときかかるところ
感情	お母ちゃんに会って嬉しかったこと、お母ちゃんに会って嬉しかったこと	お母ちゃんに会って嬉しかったこと、お母ちゃんに会って嬉しかったこと

～児童アンケートによる3年生児童の意識調査～

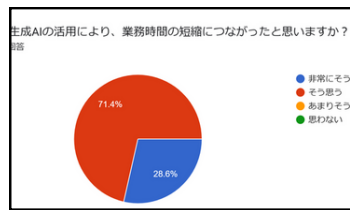
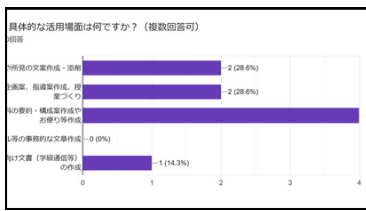
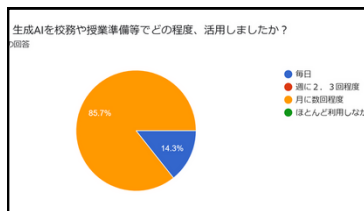


2. 「1」で書きやすかったと答えた人はなぜ書きやすかったですか？
21件の回答

わからない時に先生の例を見たら良かった。
見本みたいだしそういうやつを売ってほしいからやりやすい
AI先生のお手本があったから、わからないときにAI先生の例を見たら良かったからです。
AI先生の書いたのをまねがでるしやりやすい
AI先生のかいたのお手本にうらやまから
私と「AI先生」の選んだ語は違うけど「AI先生」の書いたのをみてどういう風に書いているかヒントをもらったから
例にできるから

「書きにくい」と答えた児童の意見として、「生成AIが用意した文章は長くて理解に時間がかかる」「お手本の例があると、その文章に考えが引っ張られてしまい、自分の考えが書きにくい」という意見がある児童も少数だがいた。

8. 活用結果（職員アンケート）



6. 生成AIの活用により児童の学習態度や思考の深まりに変化はありましたか？（自由記述）
48件の回答

まだ使用していない
生成AIの活用を推進することで学習の促進につながった。
クラスみんなのAI活用で、クラスの雰囲気を変えてくれたり、子どもも考えを深めてくれたり、子どもが考えを深める。考えることの本質もよくわかった。AI活用のおかげで、教師も安心な気持ちで授業ができた。

7. 校務や授業での生成AIを活用してみたいと思うことはありますか？（自由記述）
48件の回答

簡単にしたい「資料」に見る力を同時に鍛える
生成された内容が正しいと安心して、正しいかどうかを調べなくて済むのが嬉しい。
使いこなすことを習慣化し、思考の壁打ちが身に付いていけると感じる。
自分のほしい「場面」に向けてプロンプトを打っていかないか心配になります。AIの回答は批判的なものがないので、すべて無条件に受け入れてしまうか心配はありますが、心配です。

9. まとめ

今年度からスタートした生成AIの実践だったが、活用し始めることで校務の軽減や授業づくりにおいてその効果があることが職員全体で共有できた。生成AIをどの場面で活用したらよいのかを考えたり、プロンプトのスキルを上げることは、いかに校務の負担を軽減するかにつながり、本校の研究主題になぞった授業づくりを行う上でも効果的であることが実践から感じることができた。職員アンケートから次年度も生成AI活用に意欲的であることから職員として授業者として生成AIを活用し、思考の壁打ちを習慣化できるようにこれからも継続して活用していきたい。

